佐々木敏議員

質問①

移住体験住宅について

問 令和6年度の利用実績について

答 本町では、平成28年から人口減少対策の一環として移住定住、交流人口の増加による地域の活性化を図ることを目的に2棟3戸を整備して事業を実施しています

6年度は、延べ利用人数34名、滞在日数407日で2棟4名はリピーターでした。

年代別では、20代から80代と幅広く、特に70、80代の夫婦が多い傾向にあります。

問 令和7年、8年の利用状況について

答 例年6月から9月までの夏季期間に利用希望が集中し、本年も7月、8月とも全3戸が予約で埋まり、6か月以上の長期滞在が1組1名、イチゴ農家へのインターンシップで2組3名の計3組4名の利用がありました。

問 利用料金、利用条件について

答 料金については、近隣町の状況を勘案して、光熱費込み1名日額1，800円、冬期間は2，100円です。長期の移住体験者には、光熱水費燃料費込みで月額4万円としています。

インターンシップ利用については令和6年度から据え置きにしています。

令和6年度までは一律7日以上90日未満の移住体験として募集していましたが、今年度から、6か月以上の長期滞在に1戸、町内事業者でのインターンシップ希望者に2戸の募集をしています。

問 利用者の居住地（管内、道内、道外）について

答 利用者の居住地については、令和6年度18組のうち道外が17組、管内以外の道内が1組でした。

問 平均利用日数について

答 令和4年度21日、令和5年度31日、令和6年度24日、平均26日となっています。

問 利用者の移住実績について

答 平成28年度の制度導入以降、令和6年度までに、89組148名に利用していただきましたが、4組7名が完全移住しています。1組はご主人が様似町出身のご夫婦、3組がJRバスの運転手として採用になり移住しています。

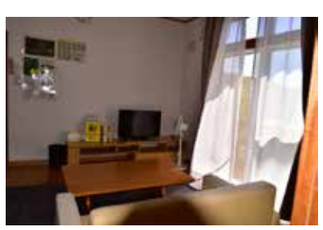
問 今後の課題について

答 移住体験は7月から9月にかけての夏季期間が多く、リピーターや、町民との交流を求める方も増え関係人口施策としては一定の成果が出ていると感じています。

しかし、移住につながったケースは少なく移住促進施策としては思うように成果をあげられていないのが実情です。

要因として、冬の北海道の暮らしに自信が持てないとの理由から断念するケースが目立っています。このことから長期利用を促し、冬季間の生活体験等夏季期間限定からステップアップを目指し、庁内人材確保、一次産業はじめ各事業者に呼びかけ、インターンシップとして若い世代に来てもらう事にシフトを変更し、成果を上げていきたいと考えています。

本町は都市部からの交通アクセスの悪さ、医療福祉面の不安等完全移住のハードルは高くなっています。また、移住の際の住宅についても、程度の良い物件を提供できないことも課題になっています。



坂本好則議員

質問①

一期4年間の総括について

問 町長、4年間ですね、色々な事があったと思います。給食問題、過去に町長と夜遅くまで時間をかけて、給食センターがいいのか、スクールランチがいいのかという事を夜8時位まで議論したことを覚えております。また、人口減少が中々止まりません。高齢化は、この4年間かなりに進んでおります。一次産業にとっては、後継ぎがいないという事で、随分廃業された方もいらっしゃいます。その方々を見ていながら、どういうふうに感じていたのか。副業を許可した方々が、その副業に対してどういうふうに思っておられるのか。老人福祉に対しては、デマンド交通、福祉タクシーなど、老人福祉に対して、いろいろと力を注がれました。町長には、まだまだ公約上、積み残した課題があると思っております。観光面についてもお聞きしたいと思います。日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されてから1年、交流人口のことですが、各町と比べて様似町は、小さな数字でした。なぜそれ程増えなかったのか。それも教えてください。アポイ岳ジオパークについてお伺い致します。平成20年頃からのジオパーク関連の費用はどのぐらいかかっていると思いますか。私は大体掴んでいるところで5億円あまりの金額が6億円位になっているのではないかと思っています。この間、どれだけの人、どれだけのお金がかかっていっているのか。教えて頂きたい。それから、ジオパークで町内観光を活性化しようとする、観光化だけじゃない、子供の教育だとか、いろんなものも加味した中でこのジオパーク進めてまいりました。いつになったら観光客が増えるのだろうと期待しておりましたが、全くどんどん衰退していく一方です。町民がどれ位関心を持っているか。過去から色々と言われておりますが、何％ぐらいの方がこのジオパークに対して、関心を持っておられるのか。教えてください。このジオパークに対して、アンケートを取って今後の進め方を検討できないのかどうか、その辺もちょっと教えてください。最後ですが、北の流氷、頓挫してしまった。町長は数字を言わなかったのですけども、もう9千万円位が使われてしまっている。これ町費を充てているわけですよね。返してもらえるのだろうか。返してもらえるとしたならどうするのか。その責任の取り方を教えてほしい。以上よろしくお願い致します

答 【荒木町長】

一次産業全体としては、自然環境の辺境変動要因を受けやすい生産への影響が大きく表れております。4年前に発生した太平洋沿岸での赤潮の大発生による水産物に及ぼした被害は甚大であり、その回復がまだ図られていない状況で、働き手の確保に苦慮している状況にあります。また、人口減少の歯止めは厳しいかもしれませんが、そのスピードを鈍らせる取組を模索しながら歩み続けたいと思っておりますし給食にも取り組んでまいりました。様似型スクールランチについては、児童生徒のアレルギー対応と利用率の向上が見られたことから無償化を実施致しました。

日高山脈襟裳十勝国立公園は、我が町を見守る聖なる山であるアポイ岳と、その山を構成するカンラン岩体は、世界に誇るジオパークであり私たちの財産であります。この財産を守るだけでなく、これを生かし、町が賑わい、そして潤う取組へと段階的に取り組んでまいりたいと思っております。

ジオパークの関係に対してのアンケートについては、総合計画の中間年ということで町民千人の抽出でのアンケートをやりました。また、人口減少の町でも気概を持って生活していける町づくりをしたい。ジオパーク関係費は、平成6年から16年間で合わせまして3億9千6百万円になり年間にしますと約2千5百万円を支出しているということになります。

北の流氷（仮称）ですが、こういう状況になったことは本当に申し訳ないという思いでおります。これは一町長として参加している身でありますからそれについては責任を感じておりますし説明責任についてもきちっとさせて頂きます。

私は、推進委員会のえりも町と連携を取りながら、しっかりやっていたつもりです。

ただ、その中で、9千万円の内容については、制作委員会のほうで監督がやったものに対して現在出しているという金額だと思います。町としては、担当の方から説明させていただきます。北の流氷の関係は、十分に心に留めさせていただきます。